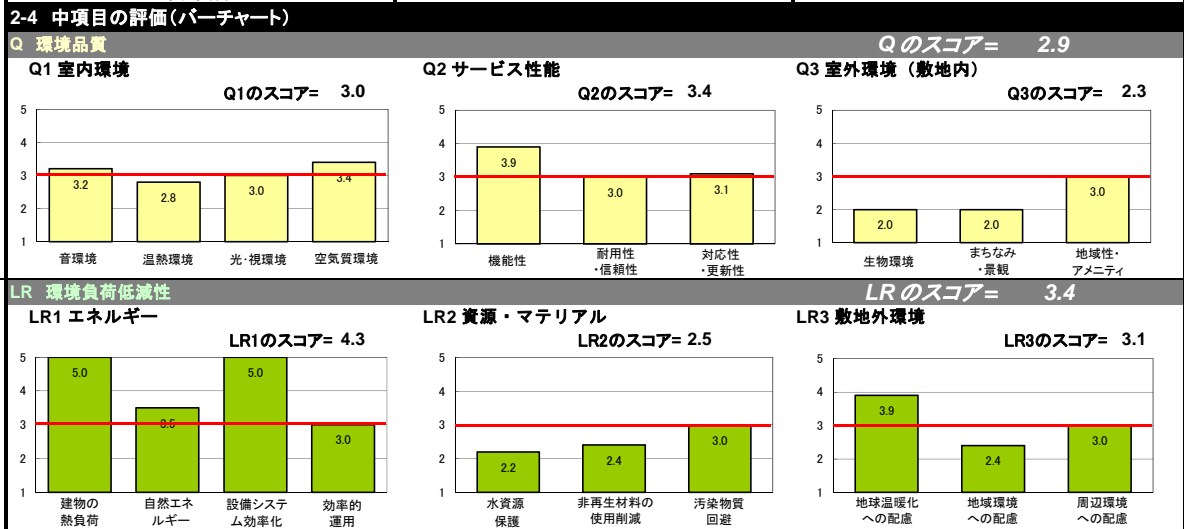
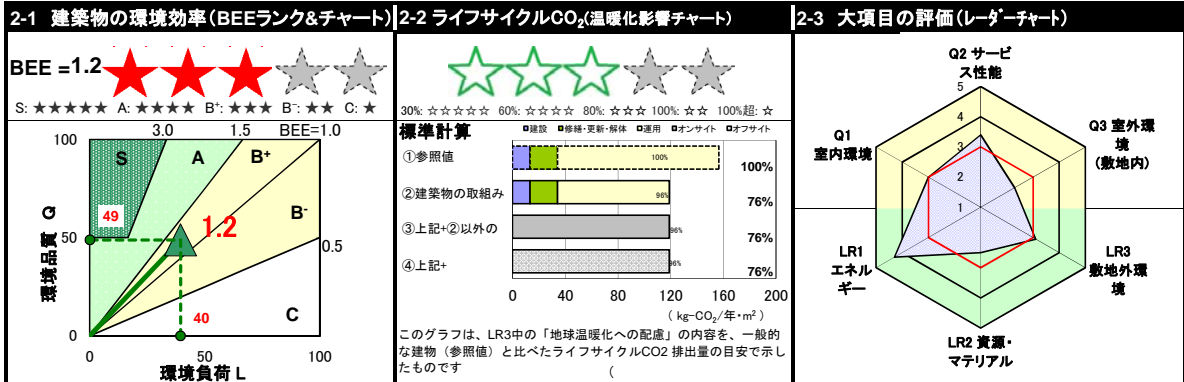


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	レモンの樹東海	階数	地上4F
建設地	東海市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	120 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年1月 予定	評価の実施日	2015年2月6日
敷地面積	4,977.46 m ²	作成者	ウィルブランニング 佐橋
建築面積	2,034.30 m ²	確認日	2015年2月9日
延床面積	6,111.11 m ²	確認者	ウィルブランニング 佐橋



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p>

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **7.9 %**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0 %**

〈外装材に使用した地域性のある材料〉
なし

〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉
なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境								3.0
1 音環境								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				遮音等級T2(30db)のサッシを採用。	5.0	0.40	3.0	0.40
2 界壁遮音性能					3.0	0.60	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20
1.3 吸音								
3.0					3.0	0.20	3.0	0.20
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温					3.2	0.50	3.0	0.50
2 負荷変動・追従制御性					3.0	0.38	3.0	0.57
3 外皮性能					1.0	0.25	3.0	0.43
4 ゾーン別制御性				階系統、使用用途系統毎の空調計画。個室は個室毎にルームエアコン。	5.0	0.38	-	-
5 温度・湿度制御					-	-	-	-
6 個別制御					-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮					-	-	-	-
8 監視システム					-	-	-	-
2.2 湿度制御								
1.0					1.0	0.20	3.0	0.20
2.3 空調方式								
3.0					3.0	0.30	3.0	0.30
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率					3.0	0.30	3.0	0.30
2 方位別開口					3.0	0.60	3.0	0.60
3 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0	0.40
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア					3.0	0.30	3.0	0.30
2 昼光制御					3.0	1.00	3.0	1.00
3 映り込み対策					-	-	-	-
3.3 照度								
3.0					3.0	0.15	3.0	0.15
3.4 照明制御								
3.0					3.0	0.25	3.0	0.25
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				仕上げ材の選定に十分注意した。	5.0	0.50	3.0	0.63
2 アスベスト対策					5.0	1.00	3.0	1.00
3 ダニ・カビ等					-	-	-	-
4 レジオネラ対策					-	-	-	-
4.2 換気								
1 換気量					3.0	0.30	3.0	0.38
2 自然換気性能					3.0	0.50	3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	0.33
4 給気計画					-	-	-	-
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視					1.0	0.20	-	-
2 喫煙の制御					1.0	1.00	-	-
Q2 サービス性能								3.4
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性				特別養護老人ホームの必要広さを確保した。	5.0	0.40	5.0	0.60
2 高度情報通信設備対応					-	-	5.0	1.00
3 バリアフリー計画				建物の用途上、十分注意した。	5.0	1.00	-	-
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				すべての室は、天井高2.5m以上としている。	3.0	0.30	3.5	0.40
2 リフレッシュスペース					-	-	4.0	0.50
3 内装計画					3.0	1.00	3.0	0.50
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.30	-	-
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務					-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性					3.0	0.31	-	-
2 免震・制振性能					3.0	0.48	-	-
3 耐震・制振性能					3.0	0.80	-	-
4 耐震・制振性能					3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.33	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.09	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.08	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.15	-	-
					3.0	0.23	-	-

2.4 信頼性					3.0	0.19			
1	空調・換気設備		②		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3	電気設備				3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.2	0.29	3.0	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり					3.0	0.31	3.0	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.6	0.38			
1	空調配管の更新性		②	適切な箇所にて点検口を設けている。	4.0	0.19			
2	給排水管の更新性				3.0	0.19			
3	電気配線の更新性				-	-			
4	通信配線の更新性				3.0	0.13			
5	設備機器の更新性			適切な箇所にてルート・マシンハッチを設けている。	5.0	0.25			
6	バックアップスペース				3.0	0.25			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出		●	③		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④		2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④	外構は既存樹木の保存を図ると共に、愛知県産材利用のベンチを	3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.3
1 建物の熱負荷抑制				BEI=0.68	5.0	0.30		-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20		-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用			太陽光パネルを設置している。	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化				高効率の機器を選定している。	5.0	0.30		-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					5.0				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.20		-	3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護					2.2	0.15		-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.4	0.63		-	2.4
2.1	材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●			1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●			3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68		-	
1	消火剤				-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00		-	
3	冷媒				-	-		-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			①	高効率の機器を選定している。	3.9	0.33		-	3.9
2 地域環境への配慮					2.4	0.33		-	2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	●			3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		-	
1	騒音	●			3.0	0.33		-	
2	振動	●			3.0	0.33		-	
3	悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制					3.0	0.40		-	
1	風害の抑制				-	-		-	
2	砂塵の抑制				-	-		-	
3	日照阻害の抑制				3.0	1.00		-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

レモンの樹東海

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				3.9	
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10		
② 資源の有効活用					2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19		
③ 敷地内の緑化				2.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09		
④ 地域材の活用				1.0	
		(評価ポイント)			
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-		

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 外壁部分は全周バルコニーを回し暑熱環境を緩和するとともに、入居者のプライバシーの確保に努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ゾーン別制御性と仕上げ材の選定に特に留意した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物の用途上、廊下幅や扉開口幅など余裕のある空間設計とした。 車椅子利用者を意識し、自閉式の引戸を極力採用した。 建物の耐用性・更新性に十分留意した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物内に8m×8m以上の広い中庭を2箇所設け、外構には愛知県産材を使用した木製ベンチを設置し、外部環境を感じとることのできる計画とした。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋上に太陽光発電を採用した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 汚染物質の仕様回避に十分留意した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車場部分を全面浸透性アスファルト舗装とし、雨水流出抑制を意識した計画としている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 既存樹木(桜)の保全を図った。